

ご存知ですか？ わがまち精華町を！

ふるさと案内人と行く

第12回 ふるさと発見の旅

—秋—

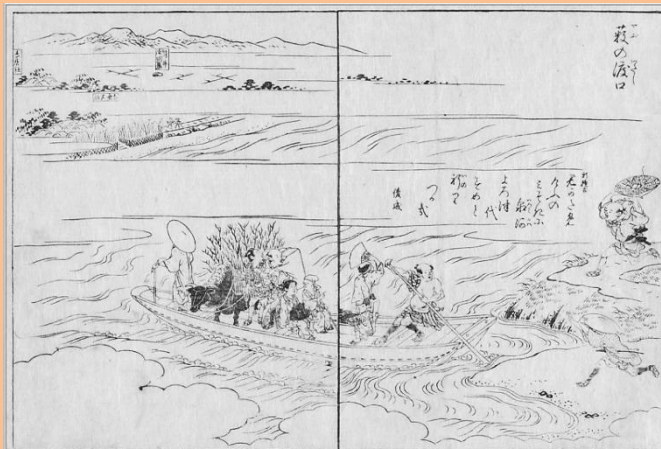
山城國菱田村絵図でたどる

晩秋の藪の渡しと三つの春日神社

開催日：11月7日（水）・12月1日（土）

集合：午前9時30分 近鉄狛田駅北出口前

解散：午後3時30分頃 JR下狛田駅東側駐輪場前



藪の渡口(『拾遺都名所図会』巻四)天明7年(1787)

《コース 約8km》狛田駅前（スタート）

→春日神社（宮川原）→郡山街道筋茶屋前

→春日神社（本庄）→百久保遺跡 →藪の渡口

→春日神社（縄添）…（昼食・滝の鼻集会所）

→長福寺跡 →古池→薬師山・薬師堂跡

→山田池・下狛新池 →旧軍用鉄道鉄橋跡

→JR下狛田駅・近鉄狛田駅（解散）



主催：公益社団法人 精華町シルバー人材センター ふるさと案内人の会
後援：精華町 ・精華町教育委員会



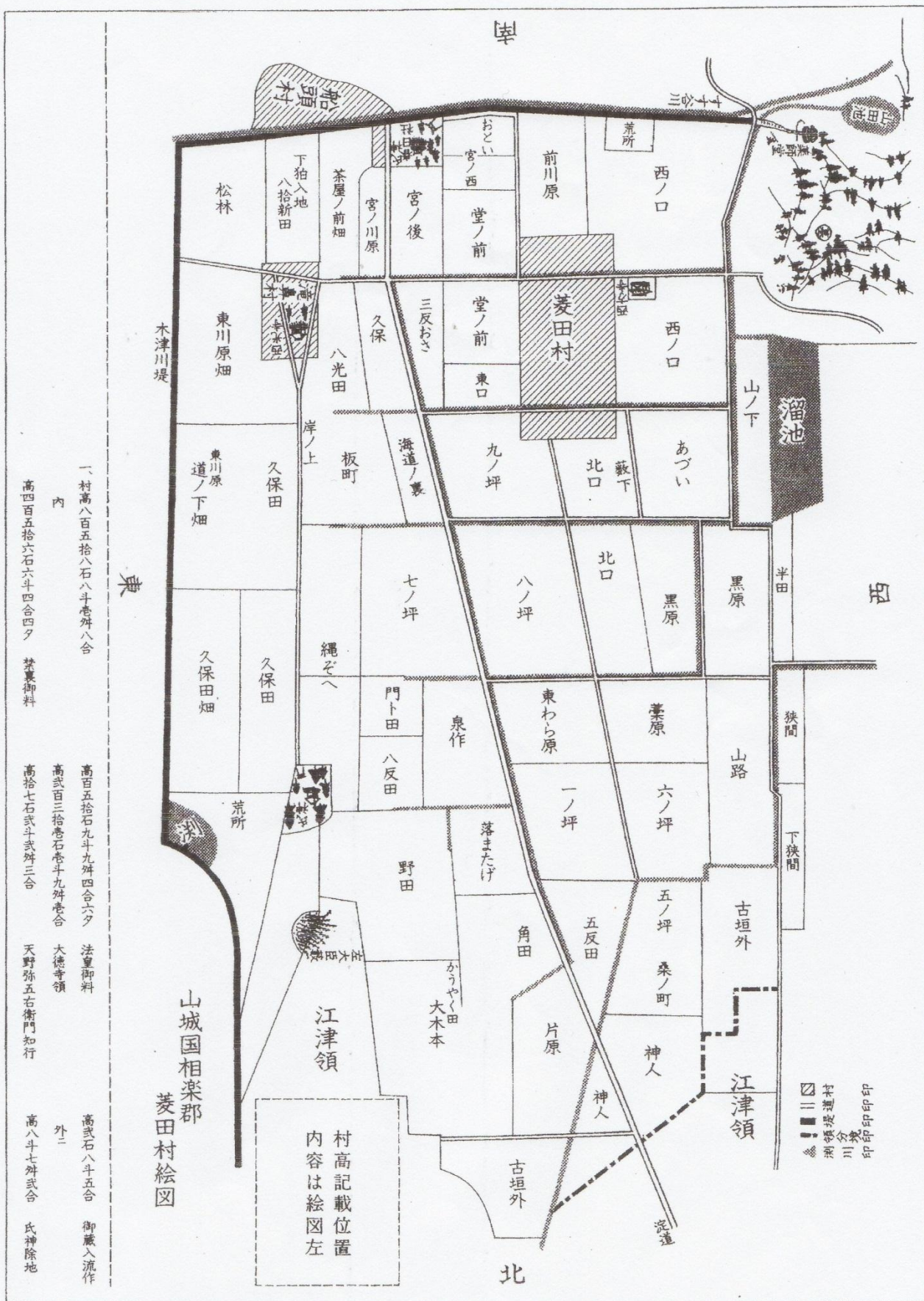


図110 菱田村村絵図 (『森島國男家文書』より) 精華町史掲載資料引用

【三つの春日神社】

精華町の菱田地区と下粕地区に郡山街道を挟んで、半径 350mの円内に【春日神社】という同じ名前の神社があります。それぞれ、旧菱田村・滝鼻村・船頭村の氏神様で、由緒などは不詳ですが、江戸時代以前からあったようです。

神社の名前が、なぜ宮川原神社とか縄添神社、本荘神社でなく【春日神社】となっているのか、ふと 気になりました……。

御祭神は、^{たけみかづち みこと}みな武甕槌の命、^{ふ つぬし みこと}経津主の命、^{あめのこやね みこと}天児屋根の命で、同じ神様が祭られています。そこに、なにか……？



三つの春日神社

出所(京都府庁文書)

	春日神社(菱田地区)	春日神社(滝ノ鼻地区)	春日神社(舟地区)
所在	菱田村字宮川原	菱田村字縄添	下粕村字本荘
祭神	天児屋根命(あめのこやねのみこと)	天児屋根命(あめのこやねのみこと)	天児屋根命(あめのこやねのみこと)
	武甕槌命(たけみかづちのみこと)	武甕槌命(たけみかづちのみこと)	武甕槌命(たけみかづちのみこと)
	*大正14年神社明細帳には上記2神に加えて経津主命(ふつぬしのみこと)	*大正14年神社明細帳には上記2神に加えて経津主命(ふつぬしのみこと)	経津主命(ふつぬしのみこと)
例祭	毎年10月17日(*郡村では9月15日)	毎年10月17日(*郡村では9月15日)	毎年10月17日
信徒数	68戸(*大・明では57戸)	17戸(*大・明では20戸)	24戸(*大・明では27戸)
建物	社殿 正面5*側面6尺	社殿 正面3.2*側面2.5尺	社殿 正面2*側面2尺
	拝殿 梁行2*桁行5間 *大・明には「神饌所」あり	拝殿 梁行1.5*桁行3間 上屋 梁行1間4尺*桁行1間5尺	拝殿 梁行1.5*桁行2間 (社 梁9尺*桁行2.5間 拝所 梁1.5*桁行3間【社画】)
境内神社	多賀神社 方1尺 祭神 伊邪那岐命 由緒 不詳	八幡宮 正面2.5*側面2.8尺 祭神 菅田別尊 由緒 不詳	
	西宮神社 方1尺 祭神 事代主命 由緒 不詳	稻荷社	
	祈雨神社 方1尺 祭神 弥都波売命 由緒 不詳	天満宮(*大明)	
	風神神社 方1尺 祭神 志那都彦命 由緒 不詳		
境内地	境内図あり(図・図面・社画)	境内図あり(図・図面)	境内図あり(図・図面)
由緒	不詳	不詳 (昔時奈良春日山鎮座官幣大社春日神社ヨリ分御霊セシト云フ由緒巻物アリシモ流出セリト云フ。*大・明)	不詳
その他		明治44年、本殿を始め各社殿を改築(*大・明)	

上記記述は、京都府庁文書内 明治16年神社明細帳による
 「*大・明」は、大正14年の神社明細帳
 「*郡村」は、明治17年の相楽郡村誌
 「*図面」は、明治16年の相楽郡社寺境内外区別図面
 「*図」は、明治16年の相楽郡社寺境内外区別図
 「*社画」は、明治4年の社地面図

宮川原 春日神社

* **沿革** : 大同 2 (807) 年平安時代前期、奈良春日神社 (現春日大社) の分社 (当時は小さな祠程度の社と推定される) として建立したと伝えられています。

* **文化財** : 本殿は、昭和 12 (1937) 年国宝、同 25 (1950) 年法改正で、重要文化財に。

本殿東側の石燈籠一基は、昭和 13 (1938) 年重要美術品に指定されています。又、絵馬や湯釜などの銘がその時代を示し、文化的価値の高いものが多い。

* **社の管理** : 宮座は 4 組あって「大夫」が 36 人あり、36 人衆と呼ばれていましたが、現在は 2 組 (本座・真座) に分かれていてその人数は流動的です。宮座の「大夫」は座子氏子を代表して、宮司とともに祭祀に参列し、交代で宮守 (禰宜) として一年間出仕して宮司を補佐すると共に、社の管理にあたります。

* **祭祀** : 注目されるのは豊作を祈り、毎年 of 作柄を占うために行われる、

1 月 10 日の弓始め式であるが、他に、
・祈年祭 2 月 11 日
・八朔 8 月 31 日
・例祭日 10 月 17 日
・新嘗祭 11 月 3 日などがある。



郡山街道と茶店跡 (大字菱田小字茶屋前)

原型は北陸道から平城京に向かう古代官道。

郡山街道は近鉄の小倉付近にある巨椋池の小倉堤上を通り、木津川を泉大橋で渡り、大和国境に至る道を「大和街道」といい、深草から伏見街道と分岐し大亀谷を通り八科峠を越えて六地蔵に至り、宇治川右岸を経て大久保で「大和街道」と合流、相楽郡棚倉村 (現在の木津川市) で大和街道と分岐し木津川を渡り相楽村を経て大和国境に至る道を「郡山街道」としています。

現在の馬淵、北の堂、祝園地区を通過していた「郡山街道」、江戸時代には郡山藩の参勤交代の行列や伊勢参りの旅人、大峰山参りの行者などが、さかんに往来していたそうです。

祝園北には鍵屋、河内屋という 2 軒の宿屋と江戸屋と言う飲食店など 3 軒の飲食店があったそうで、祝園神社のすぐ横を通る郡山街道沿いがにぎわいの中心でした。

明治 24 年の調べで祝園村の概要によりますと祝園村には人力車が 6 台あって京都市行きなどで、賑わっていたそうです。

ここ「小字茶屋前」のこの辺りには最近まで旅館風の大きな建物が 2 軒あったそうです。ここに茶店があったということですが茶店の資料など現在は残されていません。



本荘（本庄） 春日神社

下粕本庄 1 番地



御祭神 タケミカズチ命
フツヌシ命
アメノコヤネ命

享保年間に奈良春日神社より龍の足を持ち帰り、祀っていたと伝えられている。
棟札によると若干年代のずれはあるが、今からおよそ 300 年程前に造営されたものと思われる。
現代の本殿、拝殿、屋根の修復は、昭和 54（1979）年に修復を行っている。

例祭日 秋祭＝10月17日 宵宮＝16日釜湯の神事 後宮＝18日

祭 祀 正月・年末年始祭 節分など

六日座 宮司が兼務のため氏子が順番に 7 名で宮座を組み（7 人衆と呼ぶ）、宮守を務める。
1 月 6 日しめ縄の取替を行う。榊の枝と藁で龍の形に編んだもので社殿の両脇に掛ける。
また、苗代田のお札立てや虫送りといった農耕の儀式なども行われている。

宝 物 神鏡が二つ 表側には唐獅子 裏側には仏像が描かれている

百久保地先遺跡

（京都府精華町埋蔵文化財調査報告書 第 1 集より）



南山城に位置する精華町は、古くから常に文化の先進地に隣接してきており、数多くの歴史的文化遺産を内包している地域です。1984 年に発見された、この百久保地先遺跡もそのひとつで、中世の墓地跡です。

当初期待された埋葬施設は、木津川の浸食によってすでに失われているらしく、残念ながら発見されませんでした。しかしながら、おびただしい数の五輪塔・石仏が発見され、精華町における当時の人々の信仰や生活の一端を窺う貴重な資料を得ることができました。

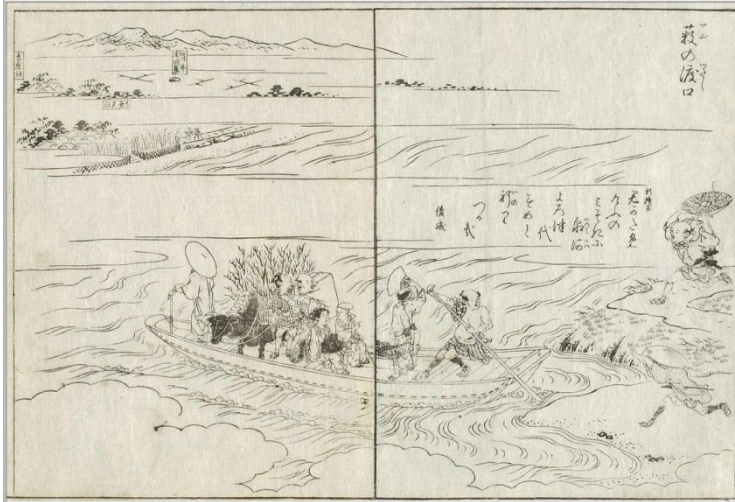
調査終了後の 1986 年に、遺跡発見者の石井一夫さんが舟地区の共同遺産として町に申し出て譲り受け、自分の田の一角を安置所にした。



藪の渡し

京から大和街道を南へ、玉水宿を通過して綴喜・相楽の郡境を越えた所(旧山城町綺田)にあり、この渡し船で、滝の鼻・舟に渡り、祝園・吐師を経て大和の歌姫を越えた。郡山街道へ向かう分岐点のひとつでした。『拾遺都名所図会』に【藪の渡口】があり、旅人や牛を乗せた渡し船を描かれている(対岸の木津川堤は大和街道)。

幕末頃に藪浜にあった船問屋・宇治屋は大和郡山藩主柳沢家の参勤交代に伴う船や人足の手配も依頼されていた。



藪の渡口(『拾遺都名所図会』巻四)天明7(1787)年
滝の鼻(精華町菱田)から藪浜に向う渡し船を描く。対岸は木津川堤が大和街道



「京うちわの小丸屋」新深草うちわ
名所図会シリーズ『57.藪の渡口』

縄添 春日神社 (滝の鼻地区) 菱田縄添31

本社 御祭神 天兒屋根命 (あめのこやねのみこと)
武甕槌命 (たけみかづちのみこと)
経津主命 (ふつぬしのみこと)

末社 八幡宮、稻荷社、天満宮

例大祭(秋祭り) 10月17日

祈願祭 3月第1日曜日、神嘗祭 10月16日、新嘗祭 12月5日 等、

*創建等の由緒は不明— 昔、奈良春日山鎮座官幣大社春日神社ヨリ、

分御霊セシト云フ由緒巻物アリシモ流出セリト云フ。*神社明細帳(大正14)

その他 明治44(1911)年、本殿を始め各社殿を造替、この造替時、

神占いにより、南面であったものが東面となった。*神社明細帳(大正14)

(参) 応神天皇の別称が、誉田別尊、天満宮の御祭神は、菅原道真公、

稻荷社の御祭神は倉稻魂命(うかのみたまのみこと)

*その他 ①縄添 春日神社の氏子総代等のお話では、本殿には、

知恩院の^{れいがん}霊巖上人により賜った【鏡】があったそうです。

②左大臣藪は、江津との境界にあったとのこと。

*当社前にある幹廻り3疋に及ぶ老杉は、樹齢400年と推定される。

奈良時代にご神体の下賜の伝承、知恩院の霊巖上人がこの滝の鼻に寄られ【鏡】の下賜。そして、近くの西光寺を創建等 活躍をされたことが、身近に感じられます。



薬師山・薬師堂跡

江戸時代に薬師寺という西方寺の末寺の小寺院があった。この寺は一間半四方の薬師堂と庫裏があり、絵図が残されているだけで詳しい事は判らないが、天明9（1789）年以前から寺の建物があり、その建物が朽ちたので仮建物を建てていたが、文化4（1816）年に元のように立て直したという経緯がある。

平成5年の薬師寺廃寺跡の発掘調査の結果、建物の跡と小規模の塔が見つかった。また塔の造営に関する石碑も見つかり、その碑文には、文政11（1828）年に薬師寺を中興した念行者という人が、一字一石経を書写して塔に納めたという経緯が記されている。一字一石経とは、小石一個に法華經の字句を一字づつ書き写したものであるが、塔の下の地中からおびただしい数の経文を記した石が発見された。この寺跡から沢山の中世末、近世初頭の石仏なども見つかっている。

薬師寺への参道は、薬師山へ登る道の一部であるが、登り口のところに庚申塚と書かれた石のみが残っており、また坂の途中に一体の地藏尊が祀られている…

「波布理曾能 16号」吉川章一氏寄稿文より掲載



せいか歴史物語 巻頭写真より

下粕「新池」・菱田の山田池

新池を「どろくぼ」と呼び、下粕区（僧坊・里・舟）の田畑 40ha に大切な用水を供給しています。このため池を保持管理しているのは、農家220名で構成されている水利組合の人たちです。先人の知恵と努力で、効率よく煤谷川の水を取り入れています。それまでは、水の奪い合いで地区間では代官所に訴えたりして何度も争いが絶えなかったと言われています。

この辺りは、隣接している菱田区の山田池と並び、絶景に恵まれ、冬には数種の水鳥が群がりカメラマンも多く集まる場所でもあります。

ところが、山手幹線が京田辺市まで貫通するため、この景観は今年で見納めとなります。（完成は平成28（2016）年3月）水を抜き、工事の準備が始まりました。

山手幹線道路は、池の上を通り、この景観も今で最後ということになります。

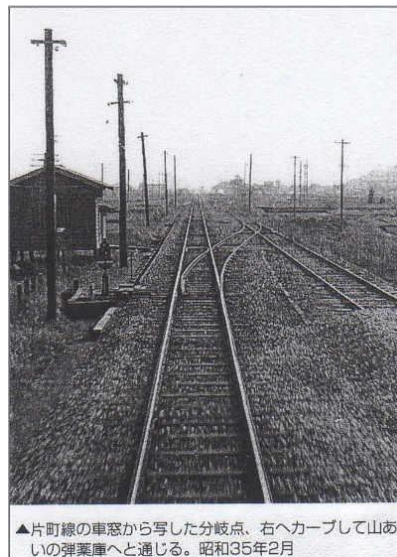


軍用鉄道「川西側線」の煤谷川鉄橋跡

昭和15（1940）年に敷設された「祝園弾薬庫」と「片町線」を結ぶ軍用鉄道「川西側線」は、三山木信号所付近で片町線から分岐し、煤谷川を鉄橋で渡り、現在の町道「僧坊・旭線」に沿って祝園弾薬庫に至る総延長4322メートルの軍用鉄道でした。また、煤谷川鉄橋は長さ17メートル、幅1.4メートルで、コンクリート製橋脚2基、鋼鉄製橋桁3連の小さな構造の橋でした。

祝園弾薬庫（当時の正式名：大阪陸軍兵器補給廠祝園支処）は、それまで東洋一といわれて枚方（当時は、大阪府北河内郡牧野村）にあった禁野弾薬庫が、昭和14（1939）年春に大爆発事故（死者94名・負傷者602名）を引き起こし、直後にその代替地として急遽建設移転されたもので、当時はこれまた東洋一といわれた大規模なものでした。

この弾薬庫や軍用側線も終戦とともに米軍に接收され、昭和29（1954）年にはこれらの施設は自衛隊に移管されましたが、鉄道はほとんど使用されず、やがて廃線になります。鉄橋は最後までそのまま残されました。しかし、治水対策の観点から平成19（2007）年には撤去されることになり、そのときに設置されたのがこの説明板とこのモニュメントです。



- ☆ 交通ルールの遵守
- ☆ ゴミは捨てずに持ち帰る
- ☆ 通り道の草花は絶対に摘み取らない
- ☆ トイレ等へ行ったり、途中で帰る場合は必ず引率者に連絡する

ふるさと発見の旅 ……いままで案内したところは……

- 第 1回 『お千代半兵衛の眠る丘からけいはんな丘陵を訪ねて』
- 第 2回 『木津川沿いを歩く』
- 第 3回 『古の佇まいの面影を残す精華古道を歩く』
- 第 4回 『学研都市研究施設を巡り歩く』
- 第 5回 『山田川流域の里を歴史と文化財の謎を探りながら歩く』
- 第 6回 『精華町最高峰「^{だけやま}嶽山」にいだかれた里 東畑を訪ねて』
- 第 7回 『祝園八景を探る旅』
- 第 8回 『山城の国一揆終焉の地を訪ねて』
- 第 9回 『南山城三十三所巡り in 精華』
- 第10回 『河井寛次郎がこよなく愛した 菅井～植田の里巡り』
- 第11回 『知っているようで知らない 精華学研都市を巡る旅』

詳細資料は「精華町ホームページ」に掲載していますのでご覧ください。

・精華町ホームページ ⇒ <http://www.town.seika.kyoto.jp/>

トップ ⇒ 観光・史跡 ⇒ 精華町ふるさと案内人の会 ⇒ ふるさと案内人の会「ふるさと発見の旅」

公益社団法人 精華町シルバー人材センター
ふるさと案内人の会

〒619-0244 京都府相楽郡精華町北稻八間井手ノ元27-1

TEL 0774-98-0510 FAX 0774-98-0670

e-mail seika@sjc.ne.jp